

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成30年4月2日

仕事の内容	生活支援体制整備事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	地域包括ケア推進	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款 4	地域支援事業費	項 3	包括的支援事業・任意事業費	目 4	生活支援体制整備事業費	事業 1	生活支援体制整備事業費
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)		
	高齢者、生活支援サービスを担う事業主体、地域住民 → 不明							
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 医療、介護のサービス提供のみならず、様々なサービス提供主体と連携し、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加を一体的に図る。 → 不明					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)		
③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)			
①生活支援コーディネーター(第1層及び第2層)を配置し、社会資源の把握に努めると共に、連絡会を開催した。 ②生活支援体制整備推進部会を設置し、開催した。 ③支え合いのある地域づくりの必要性を伝えることや地域における活動者となる人材の発掘を目的に、東大和市ともに生きるまちづくりフォーラム及びミニフォーラムを開催した。 →					①連絡会開催数 ②部会開催数 ③(1)フォーラム開催回数及び参加者数 (2)ミニフォーラム開催回数及び参加者数計			

		単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	不明	不明	不明	
	成果指標	②の数値	—	不明	不明	不明	
	目 標	②の目標値			—	—	—
		目標値設定の考え方					
活動指標	③の数値	回	① 16回 ② 20回	① 19回 ② 23回	① 24回 ② 24回 ③(1) 1回 162名 (2) 6回 154名		

3 経費	事業費(実績)		円	3,000,000	13,937,470	16,246,095	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	590,016	2,741,018	3,194,545	
		特定財源	円	2,409,984	11,196,452	13,051,550	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.2	0.3	0.3	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	1,646,600	2,480,100	2,475,900	
事業費+人件費		円	4,646,600	16,417,570	18,721,995		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	平成27年4月から、生活支援体制整備を目的として開始。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	生活支援体制整備推進部会が設置・開催され、様々なサービス提供主体間の情報共有や関係づくりが進んだ。市民向けのフォーラム等を開催し、地域における活動者となる人材が見えてきている。

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	市民(フォーラム参加者)から、以下の意見が寄せられた。 ・サロン活動や自治会に入っておらず、情報が手に入れない方への対応方法に気を配る必要がある ・サロン活動における悩みにアドバイスをしてくれるコーディネーターを求めている
-------------	------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

仕 事 の 内 容	生活支援体制整備事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	地域包括ケア推進	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)		
	取り組んだ	取組手法 ⑥ 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。		市民が主体となって生活支援体制整備について意見を交わす場を設置する予定である。	
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。		
	<ul style="list-style-type: none"> 市民が主体となって生活支援体制整備について意見を交わす場の設置に向けた取組みや場の設置数等について生活支援体制整備推進部会で検討。検討の結果、フォーラム・ミニフォーラムを開催した。 		
(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。		<ul style="list-style-type: none"> 市民が主体となって意見を交わす場では各地域の課題等について話し合う予定であり、それとは別に市内全域のレベルで生活支援体制整備事業について重点的に取り組む事項を検討する必要がある。 既存のサロン活動への支援や、自治会等に所属していない方への情報提供手段の検討を引き続き行う必要がある。 	
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など)		
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、事業の重点事項について検討し、明確化させる。 市民が主体となって生活支援体制整備について意見を交わす場の構成員を見出す。 		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。		
<ul style="list-style-type: none"> 市担当部署、生活支援コーディネーター、生活支援体制整備推進部会委員で、事業の重点事項について意見を交わす機会を設けていく。 市民が主体となって意見を交わす場の構成員を見出すために、支え合いの地域づくりに関する市民向け勉強会を開催する。 			
(3)改革・改善案による期待成果		上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。	
成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費は維持する。